

## 平成 28 年度事業報告書（2016 年度・第 25 期）

自 2016 年 4 月 1 日 至 2017 年 3 月 31 日

### はじめに

2014 年度から公益財団法人に移行し、優遇措置である寄付金に対する税額控除の対象法人になるために、寄付を呼びかけてきたが、2016 年度末に有効寄付者・団体が 300 件を突破し、要件である 5 年間の年平均 100 人を一気に超え、基金設立 25 周年である 2017 年度 4 月 14 日に北海道知事から認可を受けた。

事業活動のメインとしてネイチャーフォーラム 2016「北海道の四季物語」を開催し、写真と動画、漫画、ハーブ演奏で北海道の野生生物の尊さを訴え、感動を呼んだ。

出版事業支出は、モーリーの発行を 4 回から 3 回に減らし、ほぼ予算通りとなった。これは公益法人として、道内の主な図書館に寄贈するなど高い評価を得ており、内容についても道内では野生生物系ネイチャーマガジンとして注目されている。

### ◇収益事業（特別会計）

一般販売用カレンダー事業（制作費）

「北海道野生生物写真コンテスト」の応募作品の中から写真を選び、動物部門の大判吊り下げ型カレンダーと、植物部門の卓上型カレンダーを発行している。同基金のほか、書店などを通じて北海道の野生生物を守る目的と願いを込め販売している。

制作部数などを調整し、販売収入は前年並みを確保し、収益を公益目的事業会計に繰り入れることができた。

### ◇公益目的事業（一般会計）

#### 【普及啓蒙事業】

シンポジウムなど

・野生生物基金 2016 ネイチャーフォーラムとして 8 月 28 日、「絵本と映像とハーブが響き合う「北海道の四季物語」」を開催した。自然写真家の寺沢孝毅さんが写真と映像を紹介し、絵本作家のあべ弘士さんの絵本の朗読やトークショーで北海道の生きものの尊さを訴えた。これに合わせて京都出身で国際的にも活躍しているハーブ奏者の池田千鶴子さんが、イメージ演奏をし異色のハーモニーを響かせた。

・「エゾシカフェスタ in 札幌」を 10 月 8 日、北海道消費者協会などとの共催で開催した。エゾシカ協会会長の近藤誠司さんの基調講演「エゾシカと共存する社会の姿」と小川巖さんをコーディネーターにパネルディスカッション「エゾシカの有効活用の現状と課題」をテーマとしたほか、昼食に「エゾシカ料理」を提供しエゾシカ問題の今後へ考えを深めた。

・一般公開シンポジウム「釧路湿原の今と、未来に向けた戦略展開」を札幌で 10 月 9 日、酪農学園大学との共催で開催した。エゾシカの急増による釧路湿原の深刻な生態系への影響について、生態系の維持、回復のための管理を成功させるための戦略を議論した。

・高石ともやワイルドラン実行委員会との共催で 12 月 19 日、野生生物基金 25 周年チャリティーとして「高石ともやフォークコンサート」を開催した。ゲストのなぎら健壺さんとともに懐かしい曲目を披露した。歌の合間には「北海道フラワーソン 2017」の紹介もあり、コンサートの売上金の一部を寄付金としていただいた。

・C I S E（チセ）ネットワーク（科学系博物館・図書館の連携による実物科学教育推進のネットワーク）が主催する「第 5 回サ

イェンスフェスティバル 2017 in チカホ」を北海道新聞社とともに共催。2017年1月21日、22日の2日間、同ネットワークに参加する北大総合博物館、円山動物園、札幌市中央図書館、おたる水族館など21団体が札幌駅前通地下歩行空間の広場に展示ブースを設け「北海道の自然と観光」をテーマに開催した。当基金はブースで「北海道フラワーソン2017」の参加を呼びかけ、ステージ発表で「フラワーソンの役割」をテーマに実行委員長の小川巖さんとさっぽろ自然調査館の渡辺修さんの対談を実施した。

・フォーラム「札幌にもフットパスを」を2017年2月25日、エコ・ネットワークとの共催で前年に引き続き開催した。北海道科学大学や豊平川など札幌市内のフットパス活動のほか、上富良野を中心とした三浦綾子文学に関するコースの紹介など国内外の人々にも関心を集めるために、参加を呼び掛けた。

・シンポジウム「国際環境活動・野生生物分野で活躍する女性たち」を酪農学園大学との共催で2017年2月26日、札幌で開催した。自然科学系へ進学した大学生や高校生の進路の参考にしてもらうため、北海道環境パートナーシップオフィスの大崎美佳さんから3人に自身の経験などを講演していただいた。

## 【自然体験活動事業】

### (1) 自然・環境出前講座

北海道新聞社との共催で当基金の評議員らが道内各地からの要請で小、中学校や地域学習の場に派遣、7講座を実施した。各会場では募金箱を置いて寄付を呼びかけた。

・中標津町の道東・自然研究所の招きで旭山動物園園長の坂東元さんが7月5日、「動物園から見た野生動物保全の取り組み」と題して一般住民向けに講演した。

・日本景観学会北海道大会実行委員会の招きで7月10日、北海道大学名誉教授の岡田弘さんが学会参加者と洞爺湖町民を対象に

「有珠山噴火による地形と景観の変動」と題して講演した。

・北海道消費者協会の招きで7月11日、酪農学園大学教授の吉田剛司さんが登別市民会館で地域住民を対象に「エゾシカ管理の問題を考える」と題して講演した。

・中標津農業高校の招きで8月22日、酪農学園大学教授の金子正美さんが同高生徒70人を対象に「マレーシアボルネオ島の自然環境問題」と題して講演したほか、マレーシアのサバ州大学の学生たちと国際交流について意見交換した。

・富良野メセナ協会の招きで10月21日、寺沢孝毅さんが富良野市樹海小学校の児童を対象に「地球の生きものと自然」と題し講演した。

・音更町の矢部写真事務所の招きで11月19日、寺沢孝毅さんが写真塾の塾生を対象に「地球最後の秘境・ギアナ高地テーブルマウンテンの謎に迫る！」と題して講演した。

・浦河町教育委員会の招きで2017年2月12日、金子正美さんが一般町民や高校生を対象に「ドローンは何に使えるか？」と題して、高解像度人工衛星や三次元画像処理なども含め講演した。

### (2) 自然・環境エクスカージョン

・天売島野鳥撮影会を4月29日～5月5日、実行委との共催で開催した。天売島の5月は150種以上もの野鳥の観察記録があり、寺沢孝毅さんと当基金写真コンテスト入賞者の野村真輝さんが島内を巡り指導したほか、撮影講座やスライドショーを行い、撮影マナーやコツを伝授した。

・「全道フットパスの集い in さっぽろ・駒岡」を6月11日、12日の両日、フットパス・ネットワーク北海道などとの共催で開催した。全道からの参加者80人は、札幌市保養センター駒岡での講演会のほか、エコネットワークが整備した周辺の森林フットパスコースを歩き、さわやかな汗を流した。

・自然体験学習「天売島・宇宙塾」を7月24日～27日、羽幌町離島交流活性化推進協議会との共催で開催した。地球にあるいろいろなことがぎゅっと詰まった「小さな地球・天売島」で、当基金の評議員4人も講師に加わり、島内一周探検や海遊び、ワークショップなど、楽しく自然体験を満喫してもらった。

・昨年の赤井川から場所を移し「親子エコキャンプ in 平取」を7月27日、28日の2日間、エコ・ネットワークとの共催で平取町のニセウ・エコランドを会場に開催した。親子でテントを張ってヤマベ釣り、廃油ローソク作り、太陽光クッキング、そして夜のホタルウオッチングなど夏休みの自然体験学習を楽しんだ。

・道内で活動する彫刻家による「北海道の野生生物彫刻展」を7月30日、31日の2日間、藻南・石山・さくらの森グループとの共催で開催した。道内に生息する野生生物をモチーフとして磁場の素材「札幌軟石」を使った彫刻を、札幌市石山緑地の彫刻広場にフクロウやウサギなどを展示、小学生対象の無料彫刻体験コーナーもありにぎわった。

・小学生の夏休み自然体験学習「洞爺湖の自然とジオの恵み」を8月20日、21日の1泊2日で、札幌からの親子25組を対象に洞爺湖町で開催した。UWクリーンレイクとの共催で世界ジオパークに認定されている洞爺湖町の有珠山フットパスコースや洞爺湖中島の森林散策、ウチダザリガニの捕獲体験など、子供たちは夏休みの自由研究の課題として取り組んだ。

・「全道フットパスの集い in とよとみ」は9月24日、25日の両日、フットパス・ネットワーク北海道などとの共催で開催した。全道からの参加者は80人。雄大な牧場地帯や利尻富士がぽっかり浮かぶサロベツ湿原のコースを歩き、「酪農と湿原、温泉」が共存するフットパスを存分に楽しんでいただいた。

## (2) モーリーの森づくり

北海道新聞社との共同事業。昨年に引き続きモーリーの森Ⅱとして、植樹地の栗山町で植樹用の種を採取し苗づくり、植樹活動、自然体験活動を7月2日に実施した。道新まなぶん子供記者と小学生新聞OB、父母から希望者を募り、30人が参加した。植樹前に子供たちは植物グループと野鳥・動物グループに分かれ、評議員の五十嵐博さん、小川巖さんの指導、解説で散策し、植樹地周辺の自然について学んだ。植樹後は同町内の自然体験ハウスで、バードコールづくりにも挑戦した。

## 【コンテスト事業】

### (1) 写真コンテストと写真展

・7月から8月にかけて北海道の野生生物を対象とした写真コンテストの2016年度募集は道内のアマチュア写真家254人から838点の応募があった。審査は動物部門・寺沢孝毅委員長、植物部門・奥田實委員長ほか5人の審査委員で動物部門28点、植物部門17点の入賞、入選作を決めた。また、2018年版のカレンダー一用写真も選んだ。

写真展は富士フィルムフォトサロン札幌で11月4日～9日まで開催し、入賞・入選の全作品45点を展示した。

### (2) 夏休み自然観察記録コンクール

北海道自然保護協会との共催。夏休み前に募集の案内を発送し、9月中旬を締め切りとして、2016年度は道内小学校27校から前年より17点多い88点の応募があり、入賞9点、佳作20点、学校賞1校を表彰し記念品を贈り、11月に札幌市資料館2階ミニギャラリーで展示会を開催した。

## 【出版事業】

自然情報誌「モーリー」の発行

2016年の特集年間テーマを「北海道レッドリストの現状と課題」として3月、6月、9月、12月に発行、2017年3月号は休刊とし、年度発行は1回減らした。3月号は北海道レッドリストの①哺乳類、②植物・昆虫、③魚類、両生・爬虫類、④鳥類をテーマに、それぞれ北海道、現状と問題点を取り上げ課題を探った。

## 【助成事業】

### (1) 助成事業

2016年度の助成は11団体、292万9500円とした。申請件数は25件で昨年4月下旬に神谷忠孝審査委員長ほか5人で審査委員会を開き決定した。道内の自然保護、野生生物保全に頑張っている団体・個人の活動を広く応援している。助成対象事業の実施期間は原則1年間で、年度末に報告書を提出してもらいモーリーの事業活動報告に掲載している。

### (2) 北海道新聞エコ基金プロジェクト

北海道新聞社との共催事業。北海道新聞が紙面展開する「北海道エコ・アクション」プロジェクトの協賛金の一部が当基金の「北海道新聞エコ基金」に寄付される。これを原資として、北海道で環境保護活動に積極的に取り組む企業や団体、個人を表彰する「北海道新聞エコ大賞」は、第7回目となる2016年度は11月から募集を開始、2月28日の審査会で各賞を選考した。応募総数36件中から大賞2件、奨励賞7件が選ばれた。

## ◇その他の事業（一般会計）

### (1) パンフレットなどの作成

野生生物基金の活動を紹介するリーフレットは、寄付金のゆうちょ銀行への振込用紙を挟んでいる。フォーラムや出前講座などで配布したほか、振込用紙のみ増刷した。

### (2) ホームページの維持・更新

基金の活動を広く宣伝・紹介するほか、助成事業・写真コンテストの応募用紙のダウンロードなど、事業の推進にも役立てる。

### (3) HoBiCC（北海道生物多様性保全活動連携支援センター） 連携事業

北海道環境財団、北海道立総合研究機構と当基金の3団体連携・協力に関する協定書に2014年4月に調印した。3団体からの運営委員で組織（委員長は小林三樹北海道環境財団理事長）、当基金からは南出裕常務理事。北海道環境生活部環境局をオブザーバーとしている。

2016年度の主な事業では、道や札幌市、石狩市等行政機関で構成する「北海道セイヨウオオマルハナバチ対策推進協議会」に協力し住民参加型の外来種対策事業を行う。当基金からの運営費は30万円から10万円に減額した。